

巻 頭 言

当財団では、新津地域の貴重な財産である里山の保全や整備、その活用に向け施策検討のための基礎データとするため、財団発足時から里山の生態系や役割等について学術的な視点から調査・研究を行ってきた。その一環として平成13年度から石沢進氏に植物文化アドバイザーとして活躍していただくとともに、新津丘陵を中心に植物分布の調査・研究をお願いしてきた。

その成果は森林、野鳥、昆虫等の調査結果と共に調査報告会等を通じて市民に紹介されてきたが、こうした地道な活動により徐々にではあるが市民の間に里山保全をはじめとして環境問題への関心が高まってきたと感じている。

昨年2度の合併により81万人都市として生まれ変わった新・新潟市は、日本海側初の政令指定都市を目指しているが、新市は里山をはじめ田園や緑地、水辺など他の政令市にはない豊かな自然環境に恵まれていることから、高次都市機能と豊かな自然環境とが調和・共存した「田園型政令市」をまちづくりの基本理念の一つとして掲げている。

新津丘陵の保全・整備・活用は新市にとっても都市と自然との共生を考える上で重要な課題となっており、今後より大きな視野で保全や活用等が図られるものと期待をしている。当財団でこれまで行ってきた調査研究が今後大いに活かされるものと思う。

当財団は平成18年3月末をもって解散することになったが、里山に関する調査研究や啓発活動は新潟市に継承し今後も継続していくこととしている。

これまで石沢氏をはじめとする多くの関係者や関係機関からご協力、ご尽力をいただくことに厚く感謝申し上げますとともに、調査活動が今後も順調に進むことを祈念したい。

2006年3月

(財) 新津文化振興財団

理事長 湯 田 幸 永